

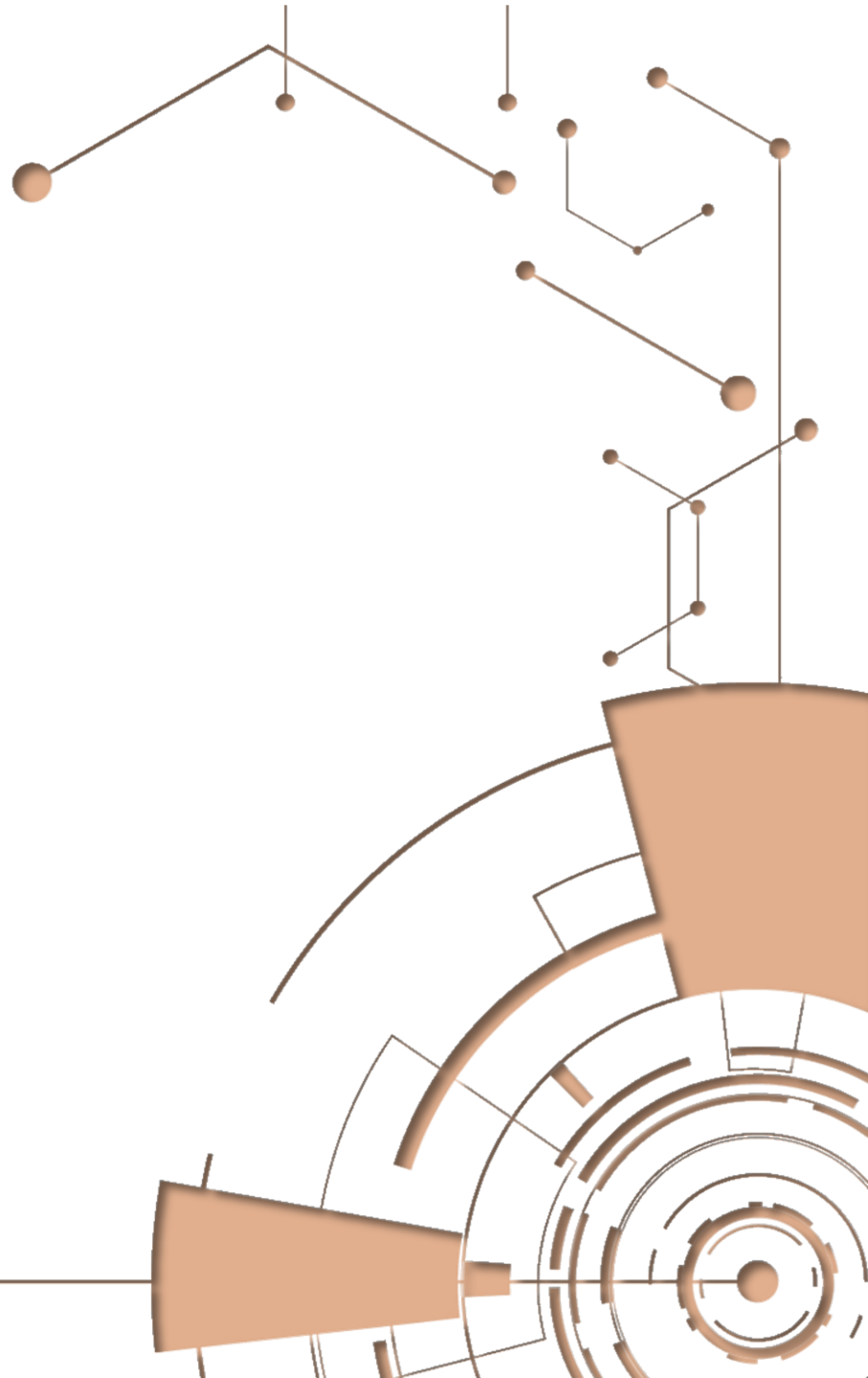


証券コード：3997

株式会社トレードワークス

2021年12月期 第3四半期 決算説明資料

2021年10月29日



通期計画達成に向け順調に進捗

売上高	:	1,655 百万円	(前年同期比 26.3%増)
営業利益	:	138 百万円	(前年同期比 2.2億円増)
四半期純利益	:	86 百万円	(前年同期比 1.4億円増)

ポイント

- ・ 既存案件を中心に、システム開発の受託が堅調に推移し、前年同期26.3%増収。利益面については、プロジェクトコストマネジメントの推進により、前年同期に比べ大幅増益
- ・ 金融機関のバックオフィス関連のDX案件も増加
- ・ エンジニア採用が計画通りに運んだ結果、内製化が進み、原価率改善に貢献

期末配当予想を変更

期末配当 (1株) : 10円 → **15円 (5円増額)** 前期比 **10円増配**

● 2021年12月期 第3四半期 業績ハイライト



前年同期比26.3%の増収。下期偏重の事業計画であることから、第3四半期までの業績進捗は概ね期初計画通り

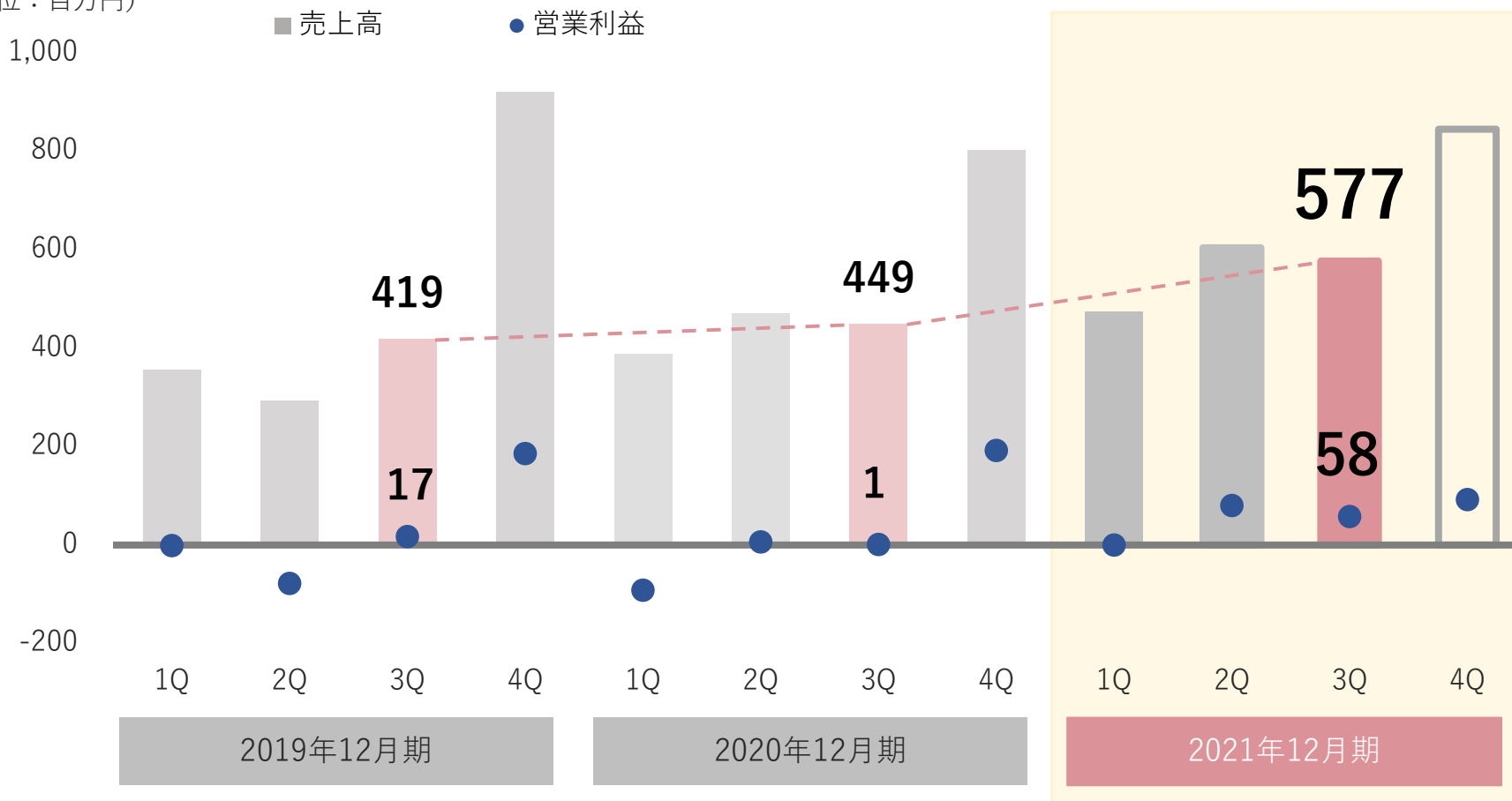
(単位：百万円)		2020.12期 3Q		2021.12期 3Q		増減額	前年 同期比	2021.12期 予想	進捗率
売上高		1,310		1,655		344	26.3%	2,500	66.2%
原価	原価率	1,088	83.0%	1,232	74.4%	143	13.2%	—	—
売上総利益		221		423		201	90.6%	—	—
販管費	販管費率	306	23.3%	284	17.1%	▲22	▲7.2%	—	—
営業利益	利益率	▲84		138	8.3%	223		230	60.2%
経常利益	利益率	▲84		139	8.4%	223		230	60.6%
四半期純利益	利益率	▲59		86	5.2%	145		160	53.9%

● 売上高・営業利益（四半期推移）



売上、利益ともに第3Qまでの各四半期において、前年同期を上回り進捗

(単位：百万円)

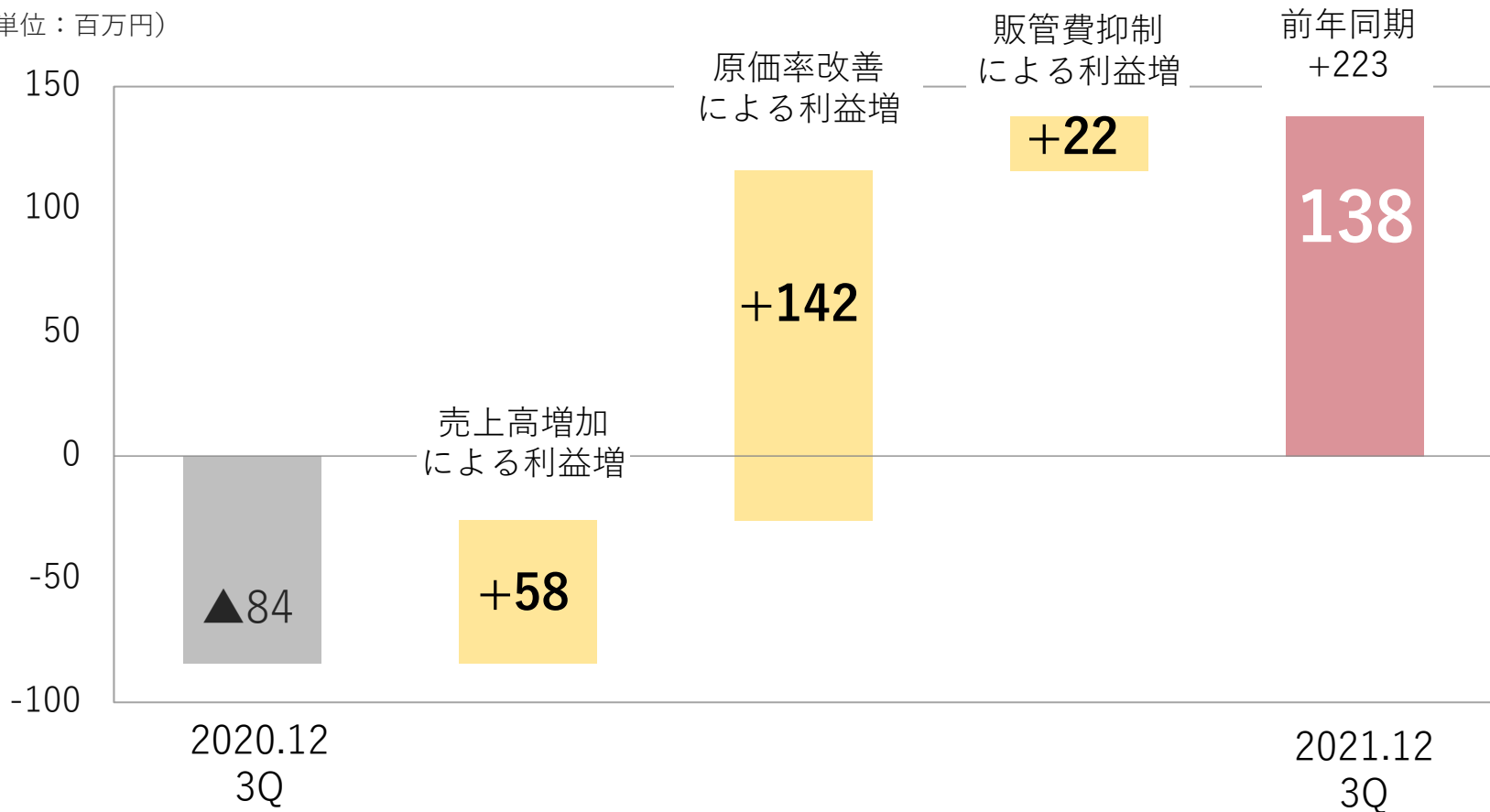


● 営業利益増加要因



増収効果、原価コントロール、販売管理費抑制が良好に推移した結果、前年同期比で、223百万円営業利益が上昇

(単位：百万円)



● 貸借対照表



(単位：百万円)

	2020.12期	2021.12期 3Q	増減額
流動資産	1,241	1,333	91
現金及び預金	835	880	44
売掛金	334	217	▲117
固定資産	566	533	▲32
有形固定資産	92	92	▲0
無形固定資産	282	246	▲35
投資その他の資産	191	195	3
資産合計	1,807	1,866	58

	2020.12期	2021.12期 3Q	増減額
流動負債	206	188	▲18
買掛金	81	105	24
未払法人税	27	28	1
固定負債	71	78	6
純資産合計	1,529	1,600	70
負債・純資産合計	1,807	1,866	58

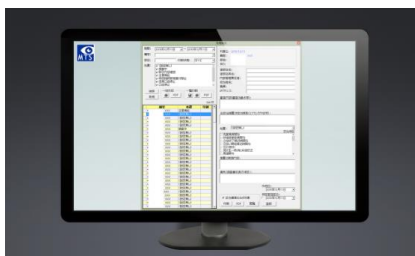
当社の主軸事業である金融機関向けのシステム開発においては、以下の製品を中心に、派生業務の引き合い、受託が増加

新領域においては、本格稼働、早期収益化に向けた取り組みを鋭意進行中

金融機関向けシステム開発の主力製品



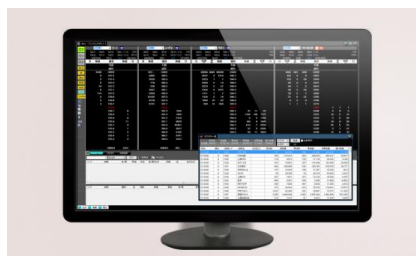
投資家向けインターネット取引システム「TradeAgent」



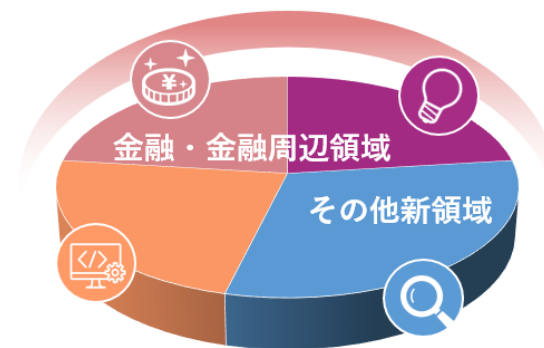
不公正取引監視システム「MTS」



高機能ディーリングシステム「Athena」



取引所売買端末「Mars」



その他新領域

■ EC分野

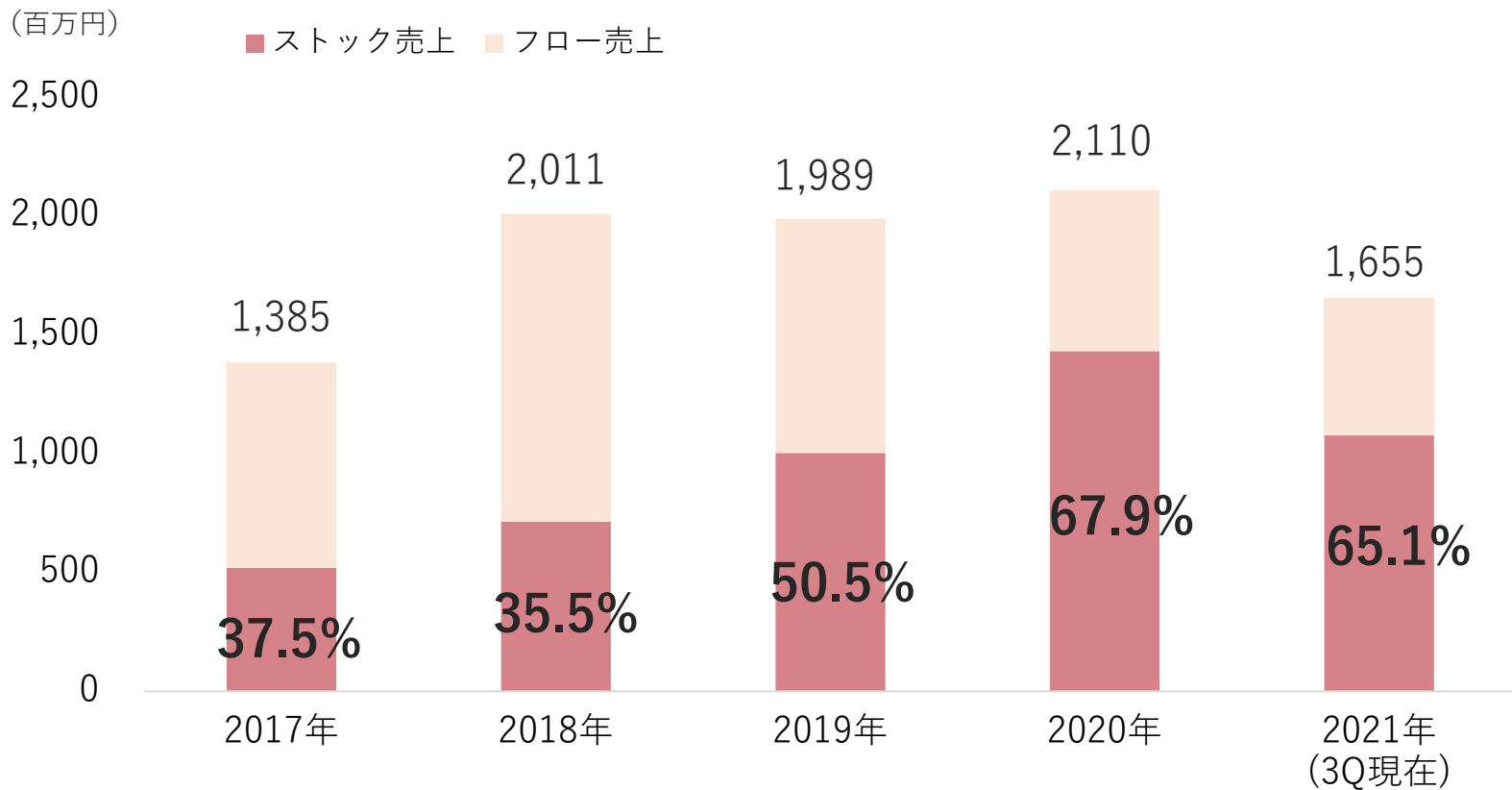


クラウドECプラットフォーム「Emerald Blue」

● ストック売上比率



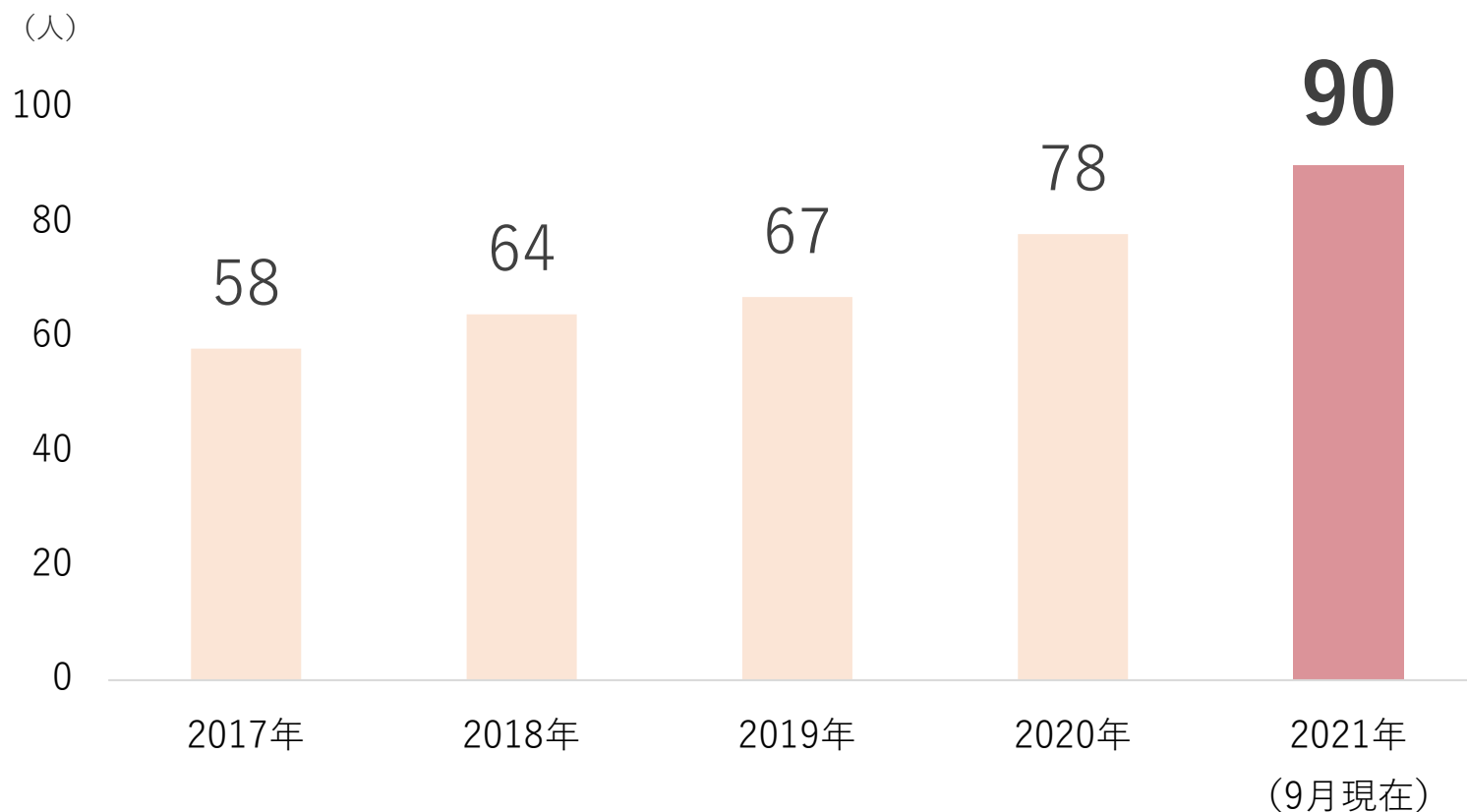
ストック型ビジネスモデルへの転換が順調に進捗し、
売上の3分の2を達成



● エンジニア数推移



大型プロジェクトにも対応できる人材に育成を進めた結果、エンジニア数が2017年の上場時から約1.5倍増加し、体制強化も順調に進捗



当社の主軸である金融・証券業界のIT投資意欲は、 コロナ禍においても旺盛

新型コロナウイルス感染症拡大の中、市場資金等の流入により、
金融取引市場は活況

①フィンテックによる金融業界新規参入業者の増加



②5G通信の商用サービス国内4キャリアでスタート



③金融システムのセキュリティに関する事案の増加



④証券会社システム強化への機運の兆し



● 2021年12月期の重点施策



当期の業績達成への取り組みに加え、中期的な飛躍に向け、
施策を着実に実行

成長戦略の更なる推進

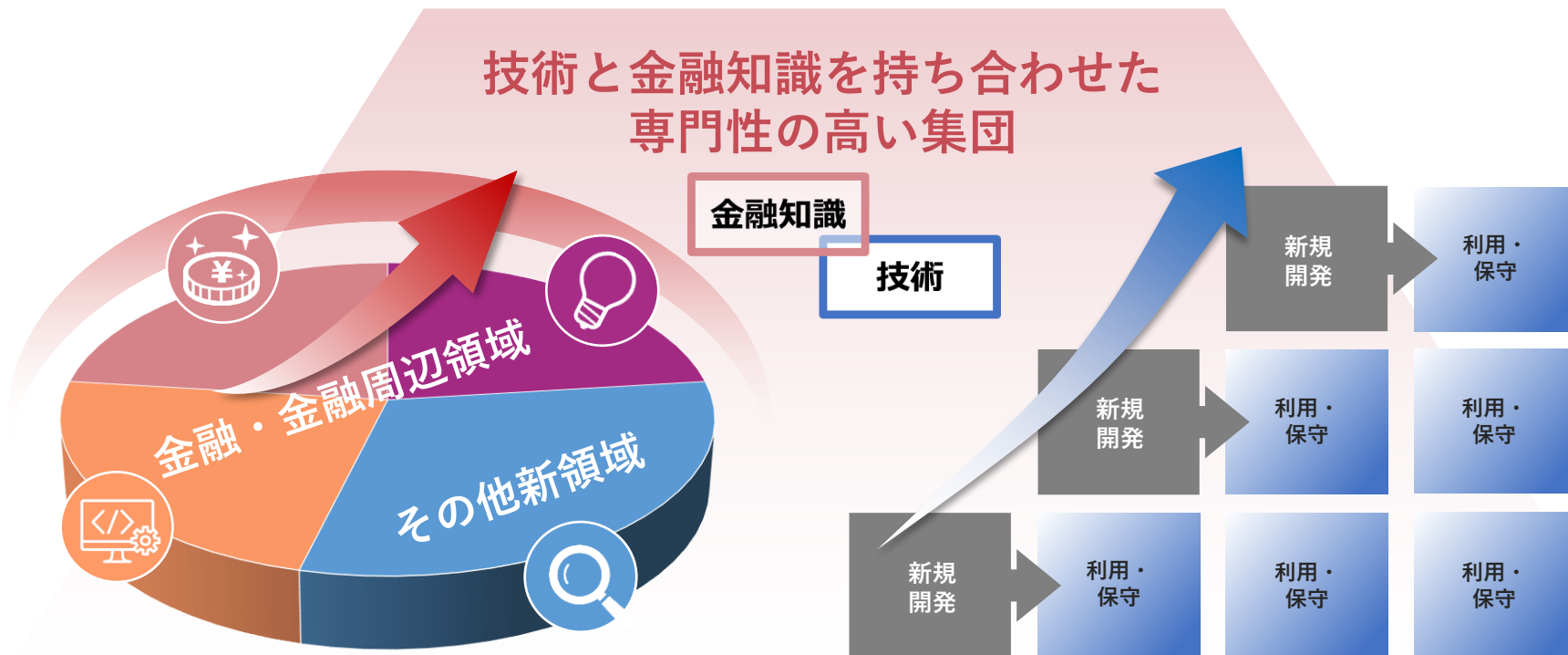
- ビジネスモデル改革によりストックモデルの導入を強化
- データセンターなど戦略投資の継続
- 主軸事業の深耕、領域の拡大
- 新領域への進出、事業確立
- 働き方改革、人手不足解消など生産性向上策といった高需要領域進出
- ニューノーマル時代への戦略強化

収益性UPへの取り組みを強化

- プロジェクトマネジメント力の更なる強化
- 金融知識を有するエンジニア、自社開発力を強化
- 人材獲得、金融知識・技術教育の充実、強化
- 顧客資産、技術情報連携体制の強化、確立

持続的な成長を目指し、2つの戦略を実施

技術と金融知識を持ち合わせた
専門性の高い集団



主軸領域の深耕と新領域への進出

事業領域拡大



利用型・ストック型ビジネスモデル比率のUP

ビジネスモデル転換

2つの戦略を継続して実施し、規模、収益力を拡大

● 2021年12月期 業績予想



前期スライド案件があるものの18%の増収、利益は約2倍増を計画

(単位：百万円)

項目	2019.12期	2020.12期	2021.12期 (予)	増減額	前期比
売上高	1,989	2,110	2,500	390	118.4%
営業利益	124	107	230	123	214.4%
経常利益	125	107	230	123	213.0%
当期純利益	89	73	160	87	218.2%

● 株主還元について



経営基盤の強化を最優先し、
将来の事業展開と内部留保とのバランスを考慮し、利益配分を行う
業績状況、財務状況を総合的に勘案し、配当予想の見直しを実施

1株あたり15円に変更

項目	2019.12期	2020.12期	2021.12期	
			(修正予想)	(期初予想)
配当金 (1株)	5円	5円	15円	10円

技術と金融知識を持ち合わせた 専門性の高い集団

技術

×

金融知識

- 最新テクノロジー
- AI
- RPA
- Fintech
- クラウド
- ビッグデータ
- バーチャルリアリティ
- 音声認識

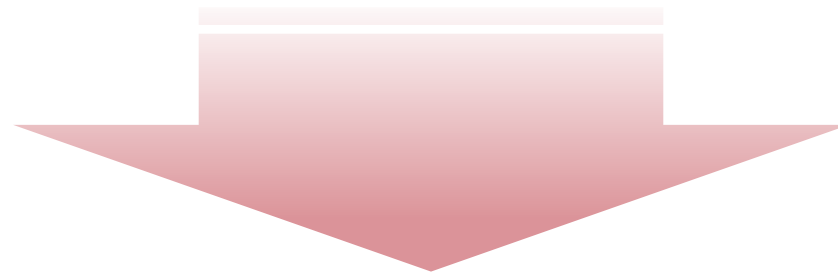


- 株式
- FX・CFD
- 仮想通貨
- 投資信託
- 保険
- 年金

ビジネスモデル改革を進め

- ① 予期せぬ不採算案件の発生
- ② 製品及びサービスへの品質・価格に対する顧客からの要請
- ③ 同業他社との競争激化

に準備、対処し収益性向上を図ります。



技術者育成 + 環境整備
全社横断 品質・生産性向上

当該資料は当社の会社内容を説明するために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等に関する記述は、資料作成時点で入手している情報に基づき当社が判断したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。投資を行う際には、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。

<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社トレードワークス
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング9F
TEL :03-5259-6611 FAX:03-5259-6612
<https://www.tworks.co.jp/>